むかでづか　はにわ

百足塚古墳の埴輪

特別展示図録

百足塚古墳

器をささげ持つ女性

2002

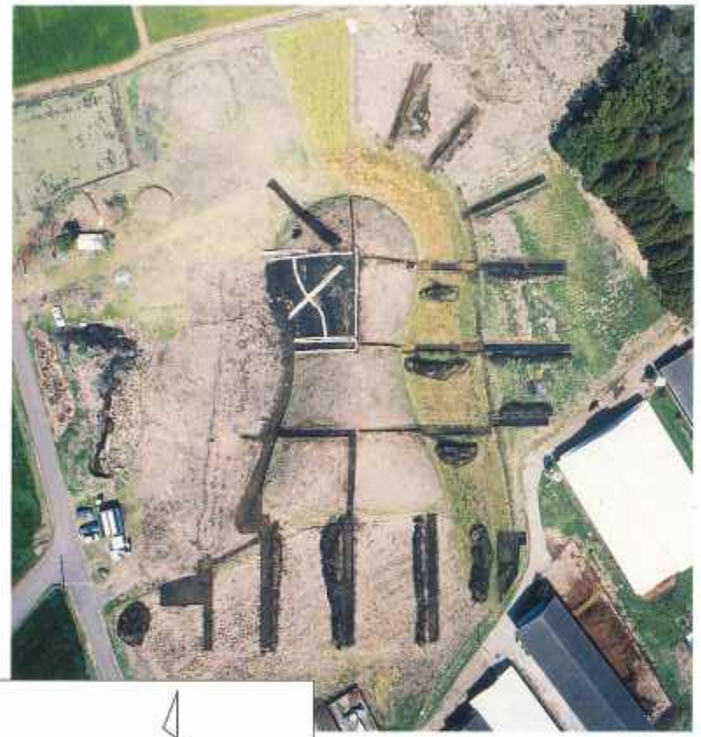
新富町教育委員会

百足塚古墳と発見された埴輪

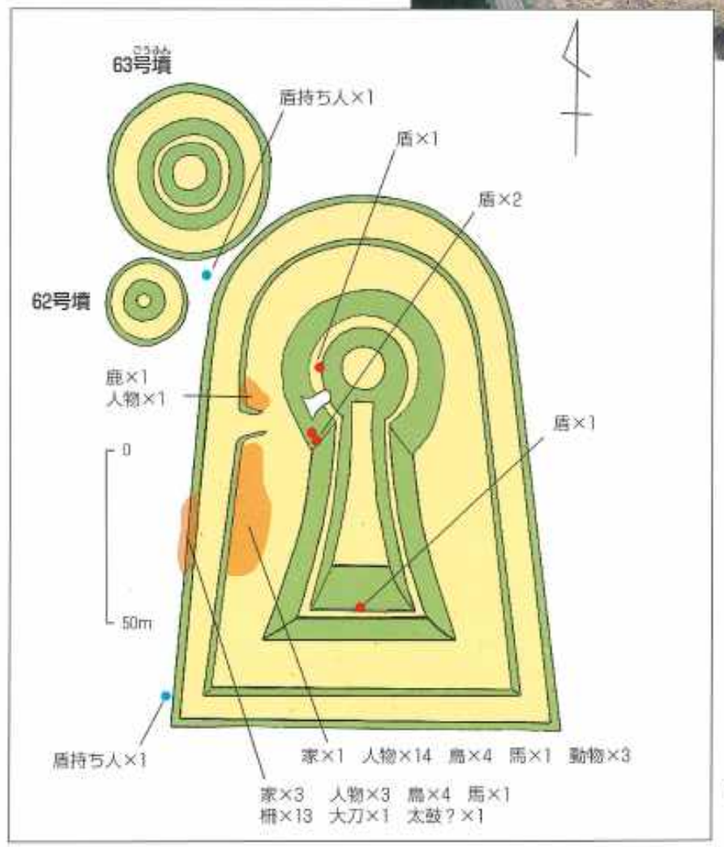
百足塚古墳は一ツ瀬川左岸台地上に分布する祇園原古墳群にある前方後円墳で、古墳時代後期の築造と推定されています。墳長約80m、後円部の高さ約8m、2段築成で盾形の周溝と外堤を巡らしています。

平成10年度の調査で、西側外堤周囲から多量の形象埴輪が出土し、その量はコンテナケースで約400箱に及びました。これまでの復元作業で50体以上の形象埴輪に復元できると予想されています。

今回の展示では復元作業の中間報告として17体の形象埴輪と2体の円筒埴輪を展示」いたします。



①百足塚古墳



②百足塚古墳の復元模式図と形象埴輪の出土位置

円筒と盾

③円筒埴輪（復元高さ約60cm）

④立てられた円筒埴輪

円筒埴輪は墳頂部とテラス面そして外堤に立ててあったことが分かりました。円筒埴輪は高さ約60cm、底部の直径約20cmで、4本のタガを巡らし、2段目と4段目に円形の透かし穴が開けられている土管状の埴輪です。

百足塚古墳では少なくとも1000本の円筒埴輪が立てられていたと考えられています。

⑤盾型埴輪と円筒埴輪

⑥盾型埴輪との文様

盾形埴輪は古墳時代に使われた木製の武具である「盾」を表現したものです。百足塚古墳では墳丘部で4体の盾形埴輪が出土しています。今のところ、墳丘には他の形象埴輪は存在しません。外部から進入してくる邪霊から墳丘を守ることを期待して立てられたのでしょう。

家と柵

⑦倉庫風建物（復元高さ約80cm）

⑧倉庫風建物の扉

⑨柵型埴輪

⑩高床の建物（復元高さ約80cm）

家形埴輪は計６体出土しており、その種類は入母屋式２体と寄棟式４体に大別できます。入母屋式の家は上の大棟と下屋根が分離できるつくりで、居住空間を表現したもののようです。寄棟式のうち、倉庫風の建物には閉められた扉の表現があり、財産を保管する建物を、そして円柱で構成された高床の建物は祭祀を行う空間を表現したものと想像できます。

鳥

⑪鳥形埴輪　４体

⑫鳥形埴輪（雄鶏：復元高さ約40cm）

⑬鳥形埴輪（雄鶏：復元高さ約46cm）

⑭頸の羽を逆立てた雄鶏

鳥は計５体が西側外堤上から出土しています。いずれも鶏を表現したもので止まり木に立った様子を表現しています。

目は穴で、耳羽を粘土で貼り付けており、尾は筒状に開いた状態になっています。鶏冠の有無で雌雄を区別できます。

特徴的なものでは、頸の羽を逆立てた雄鶏があります。鶏が興奮したさまを表現していますが。今のところ全国で３例しか確認されておらず、うち１体は大阪府高槻市の今城塚古墳で出土しています。同古墳は継体大王の墓と推定されている大王墓で、百足塚古墳との関係が想像されます。

人物

⑮裂裟（けさ）状の衣服を付けた女性
（復元高さ約77cm）

⑯器（うつわ）を捧（ささ）げ持つ女性
（復元高さ約78cm）

⑰踊る女性
（復元高さ約90cm）

人物埴輪は現在20個体以上が確認できます。男性が16個体、女性が４個体ですが、今後の復元作業でもっと数が増える可能性があります。

女性のうち３体は裂裟状の衣服を着けた巫女のようなもので、器を持って捧げるような動作をとっています。おそらく身分の高い人物に飲食を勧める役割をもった埴輪でしょう。

踊る女性は２本の脚をつくってあり、女性器が表現されています。天の岩戸神話のアメノウズメのようなものでしょうか。

⑱男性（復元高さ約85cm）

⑲今回展示した形象埴輪

埴輪の種類や数、そして置かれた場などの全体像が明らかになれば、埴輪祭祀の実態がわかるとともに、より具体的な古墳時代の葬送儀礼が判明するでしょう。

宮崎県には多くの古墳が存在しますが、形象埴輪を樹立した古墳は案外少なく、これまで人物・動物などの埴輪で全体像が分かる資料はほとんどない状況でした。百足塚古墳の埴輪は宮崎県はもとより西日本の埴輪研究にも重要な資料になるでしょう。

今回の展示では総数50体以上ある形象埴輪のうち、17個体しか展示公開できませんでしたが、今後の復元作業を待って随時公開する予定です。